

# 卯月 愛南文芸

## みなみうわ俳句会

羽織るもの少し軽やか春近し

清水 麗子

山峡の湯に抱かるる四月かな

吉田 勝也

伊予弁のはずみし朝の梅ひらく

吉田 モミエ

湯たんぽを回覧板のごと回す

木村 智子

## 檳榔子俳句会

琴線に触れて亀鳴くばかりなり

井上 論天

日差し浴び裸木妙に自由なり

中川 千代子

桜東風一泊二日のひとり旅

泉 くらら

## 内海俳句会

帰りたくなくてショールをはずしけり三好 ミキエ

受験生絵馬に決意を託しおり

竹村 勝利

それぞれに幸福があり福寿草

吉田 朝子

春一番真珠筏の縫れ合

太田 信子

カルストの牛の鳴き声春近し

濱 初榮

かあさんの口紅つけて雛まつり

五島 節子

畑打ちて百姓の顔となりけり

太田 信子

## 西海俳句会

好物を娘どきと菊日和

吉田 笑代

山の端の淡きひかりや春浅し

山口 董

宿居虫や世は東の間の仮の宿

岩森 十志子

寒夜覚む昔浜田へ出稼し

濱木 千ズエ

夕東風や漢字ばかりの重き絵馬

濱野 康子

朝ドラの土地へ旅する菊日和

利根 早智江

人参を花形に煮て雛の膳

田中 博子